分野（1）
小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び
事業内容の改善方法に関する調査研究

研　究　課　題　名　：ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究

調査研究代表者氏名：大　矢　幸　弘

評価コメント
・アクションプランの改訂において反復吸入の有用性（レスキュー薬）の導入で救急受診が減少した所見は評価できる。 ・アドヒアランスにおける個別介入が毎年1回以上で効果を発することも有用な情報。 ・パソコンによるテイラー化プログラムの作成に向けて、着実に研究が進んでいると思われる。 ・個別対応プランの有効性を確認できたことを評価する。また、タッチパネル式のパソコンの利用を通して患児の関心を高めたことも効果的であった。 ・アドヒアランスの評価指標や測定方法が不足していたところ、実用的なプラン、チェックリストを検討した点が評価される。非専門医の処方では、内服や貼付β_2刺激薬の処方が主体を占めているという実態も踏まえて、発作時の家庭におけるβ_2刺激薬の安全、適確な使用の指針を考慮願いたい。 ・アクションプラン改訂については、養育者質問表についてのアンケート調査による結果であるが、34名と少数の結果であり、患者への影響がどうであったかの検討が必要であろう。アドヒアランスの測定についてはMMASの検討を行なったが、本邦に適した案の準備段階である。ぜん息教育プログラムの開発では、開発は終了し、実施の段階であるがまだ広くは行われていない。今後の成果を待ちたい。またこれらについては、学会発表は行われていると考えられるので早期に論文化されることを期待する。 ・ぜん息患者の管理に個々の症例に応じたテーラー化された教育プログラムを作成するという発想はよいが、教育プログラムは素人の患者にとって分かり易く、かつ永続可能なものでなければならない。個別プランを作成してその効果をどのように評価したのか分かり難い。 ・現在までのところではあまり成果が得られていないような印象を持った。 ・地域医療担当者との連携プログラムにパソコン導入の有用性は、さらに検証し、推進することが望まれる。